

研究報告

第16回世界体操祭ドーンビルン2019視察報告

～ Motto “Come Together. Show your Colors!” 国際交流、独自性と多様性を求めた体操祭～

川端 昭夫¹⁾・荒木 達雄²⁾・長谷川 聖修³⁾

16th Worldgymnaestrada 2019 Dornbirn
– Motto “Come Together. Show your Colors!”
International Interactions, Originality, and Diversity –

Akio KAWABATA, Tatsuo ARAKI, Kiyonao HASEGAWA



図1 16th Worldgymnaestrada 2019

¹⁾Chukyo University · ²⁾NSSU
³⁾University of Tsukuba

1. はじめに

本年7月にオーストリア・ドーンビルンに於いて第16回世界体操祭が開催された¹⁾。世界体操祭ワールドジムナストラダ（以下ジムナ）も16回を数え、一般体操（GFA）の世界的な広がりにつれて国際体操連盟（FIG）内の位置づけも大きくなってきている。また、一般体操の行事もジムナに加えジムフォーライフなども定着し、一段と広がりを見せている²⁾。

今回の大会も、世界65カ国から、18,200名の活発な陽気な参加者を集め、充実した大会であった。オーストリア体操協会は、「センセーション、忘れられない、本当に感動的で、多様性のあるスポーツ！これがジムナである」³⁾と表現した。カウフマンは、「驚くほどの大会」であると大会を讃え、また「温かさ、喜び、エナジーが伝わり、人々を深く動かし」と加えた。ジムナ組織委員会委員長のマリー・ローゼ・ヒンターロイヤーは、「十分な喜びと感動のある見応えのある、忘れられない一週間で、全ての体操系スポーツによる高い技能と、熱狂を伴うものであった」⁴⁾と述べており、過去の大会と比較しても、ハイレベルな、完成度の高い大会であったことが分かる。

筆者は、1982年7回チューリッヒ大会に初めに参加して以来、9回アムステルダム大会から参加・視察を続けており、いつも参加のたびに大きな感動と喜びを与えてくれる大会であった。ただ、15回ヘルシンキ大会は身体的事情で参加できず、14回ローザヌ大会以来8年ぶりの参加となった。筆者にとってジムナの本質は、世界の高度な洗練された体操演技・奇抜な独自性のある演技との出会い、世界の体操仲間との演技の共演、優れた指導者との交流、世界の体操情報の収集、大会参加の選手・グループの体操への情熱・エネルギーを感じることである。大会の度に、ジムナの本質と向かい合い、大会を素直に受け入れる姿勢を大切にしてきた。

本論では、ドーンビルン大会について、体操祭の一週間の状況と優れた大会の状況と演技の感動を可能な限り報告したい。今回も体操関係

者であるFIG委員荒木達雄先生（日本体育大学）と、日本のジムナ大会代表である長谷川聖修先生（筑波大学）に、一部共同執筆を願いしており、大会の状況をリアルにお伝えできるものと感謝している。

2. 一般体操の位置づけ、世界体操祭とその変遷

国際体操連盟（FIG）は、世界体操祭を近年次のように位置づけている。

世界体操祭は、世界的な、競技に関係しないFIGの開催する一般体操の行事である。大会は、4年ごとに開かれ、幾つかのFIG行事の多数の積極的な参加者を魅了している。参加者は、性別、年齢、民族、宗教、文化、能力、社会的立場に関わらず全ての人である。

1) 一般体操の定義 “What is Gymnastics For All=GFA”⁵⁾

一般体操（GFA）の役割は、「全ての性別、世代、能力、文化的背景に適した積極的な活動を提供することである。また、一般体操の活動は、人の健康、体力、幸福、身体的、社会的、知的精神的に貢献するものである。」

一般体操のねらいは、喜び、体力、基礎、友好である。また、用具活用また用具無しの体操、体操とダンスを含むものである。

一般体操は、“世界体操祭（Worldgymnaestrada）”などでの発表、演技、また、“ライフチャレンジのためのジムナ”（World Gym for Life）などのチーム競技の行事で披露される。

一般体操は、参加者と観客に対して運動の美的体験を提供する。それは、国や文化の事情に特別な関心のある事柄に目をむける機会を得ることができる。

2) ジムナの役割 “Celebrating Diversity, Cooperation And Community”⁶⁾

ジムナは、社会における世界的な視点を推進する重要な役割を担う。そこでのねらいは、誰かより秀いであろうということより、社会的レベル（年齢、性、国籍）、身体的レベル（スキル、フォーム）において、多様性を称えること、協力、仲間づくりである。

3) ジムナの変遷

ジムナストラダは、国際体操連盟 (FIG) により主催される4年に一度の国際的な祭典である。FIGは、組織として一般体操委員会を設け、その普及を担っており、その二大行事の一つがジムナストラダである。ジムナの創設は、1950年バーゼル会議の決議で1953年第1回大会がオランダ・ロッテルダムで開催が決定され、以降ヨーロッパ圏が主な開催会場となっている。大会開催の経緯は、第2回 (1957) ユーゴスラビア・ザグレブ、第3回 (1961) 西ドイツ・シュットガルト、第4回 (1965) オーストリア・ウィーン、第5回 (1969) スイス・バーゼル、第6回 (1975) 西ドイツ・ベルリン、第7回 (1982) スイス・チューリッヒ、第8回 (1987) デンマーク・ハーニン、第9回 (1991) オランダ・アムステルダム、第10回 (1995) ドイツ・ベルリン、第11回 (1999) スウェーデン・イエテボリ、第12回 (2003) ポルトガル・リスボン、第13回 (2007) オーストリア・ドーンビルン、第14回 (2011) スイス・ローザンヌ、第15回 (2015) フィンランド・ヘルシンキ、第16回 (2019) オーストリア・ドーンビルンである^{7) 8)}。

3. 開催状況

- 1) 期日 2019年7月7日～13日
- 2) 会場 オーストリア・フォアールベルグ
ドーンビルン

大会は、オーストリア西部フォアールベルグ州のドーンビルン市を中心に開催された。南部は、山岳地方でスキー場などのリゾート地とし

て知られ、市の位置する北部は、ポーデン湖に面して比較的温暖な気候である。ドーンビルンは、4万6080人の人口を有するフォアールベルグ州の主要都市であり、行事・博覧会・スポーツなどの開催されるメッセシティとも呼ばれている。また、山と緑にめぐまれた美しい景観のリゾート地である⁷⁾。

大会は、フォアールベルグ州を中心に広域で開催されるが、主会場は、ドーンビルンのメッセエキシビジョンセンターである。ドーンビルンは、メッセシティと呼ばれるが、夏でも涼しく、自然に恵まれた地域で、山間にはリゾート風ペンションなどもあり閑閑な環境である。

今回筆者は、学校泊を取らず、日本人滞在地のフェルドキルヒ (Feldkirch) のホテルに滞在した。フェルドキルヒは、ドーンビルンから特急で30分程度の南部に位置し、「中世の香りのする街」と称されるように、石畳みの両側に趣のある古い建物が並ぶ落ち着いた街である。大会中、体操仲間である岩橋源治さんと共に、大会以外にも、観光兼ねて古い町の散策や地域料理を楽しんだことも大会の収穫である。(写真1～3)

ドーンビルンの大会会場は、発表会場 (会場1～8)、イベントホール、FIGや各国のオフィス、メディカルセンター、展示場、大会記念品売り場、手軽な飲食軽食の売店などが機能的に配列されている。本会場以外に、ドーンビルン市内に開閉会式会場である Birkenwiese スタジアム、Bregenz 市内にはラージグループ演技の会場 Casino Stadium また各国の参加者が宿泊している地域にはシティパフォーマンスの Open-



写真1 フェルドキルヒの風景 写真2 フェルドキルヒの街中 写真3 左から筆者、岩橋源治先生、中央筑波大学本谷聡先生と学生さん

AirStage小会場が設定されている（図2）。

3) スケジュール（図3）

大会プログラムは、開閉会式、各国の夕べ、FIG-Gala、ドーンビルンスペシャルなどの主催行事の他、100名以下のグループパフォーマンス、多集団によるラージグループパフォーマンス、シティパフォーマンスなどの演技発表、研究発表や指導方法などのワークショップなどから編成されている。大会中、午前、午後、夕刻まで演技発表、行事が生まれ、質量とも充実し

ている。参加者は、自分の演技の合間に、多数の演技やイベントを楽しめる配慮もあり、アイディアに満ちている。

4) 大会のモットー

“Come together.Show your colors!” 「集え。色を見せよう！」（図4 1）より転載）筆者は、国際交流と独自性多様性と解釈した⁹⁾。

5) 大会ロゴ、マスコット

大会ロゴ（図5）は、色彩の渦巻き（A Colorful spiral）（1）より転載）、このロゴは、前回の2007

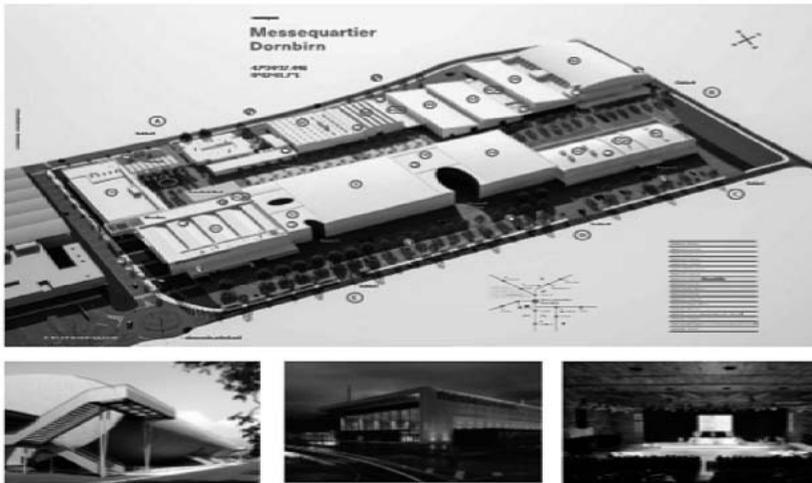


図2 大会会場

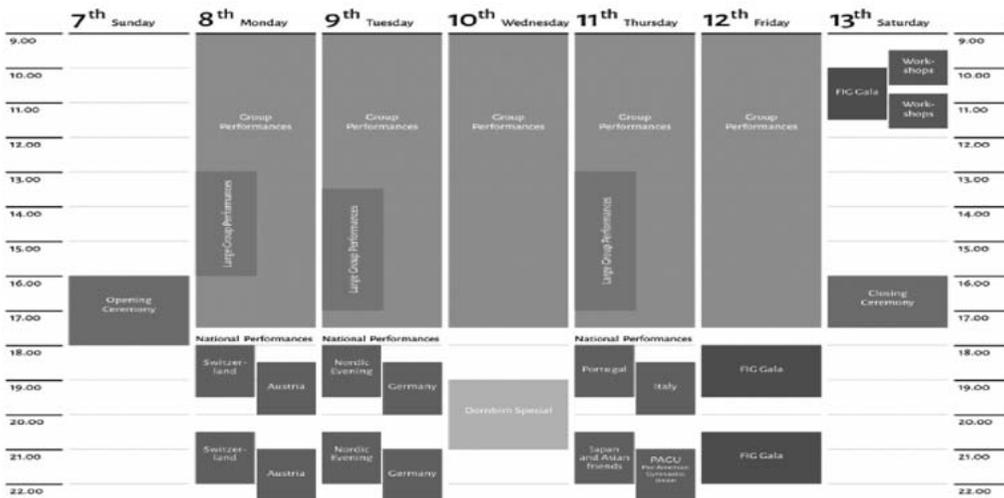


図3 大会スケジュール

年ジムナシンボル青に黄色のスパイラルを基礎として着想したもので、5つの鮮やかな色彩を持つ指針「銀河の渦巻」、回転、花火、美、調和、対称、振り付け、五大陸の集合、統一などを結びつけたとのことである。大会マスコット「ドーリー “Dorlie”」(図6)は、色鮮やかな牛であり、マスコット名は、18か国5,029名が参加する中で選ばれたものである⁹⁾。

OUR MOTTO

come
together.
show your
colours!

図4 大会モットー “MOTTO”



図5 大会ロゴ “Colorful Spiral”



図6 マスコット “Dorlie”

4. 大会内容

1) 開会式式典、エキジビション

開会式は、7月7日(日)16時から18時まででBirkenwiese Stadiumで行われる予定であったが、天候不順の関係から、急遽延期となり、11日(木)に実施された。筆者は、ほぼ同時間にFIG-GALAの会場練習があり開会式には参加できなかったため、大会の情報、共同研究者からの情報資料をもとに報告したい。(写真1) 1~1) 15 一部1) より転載)

大会情報では、「7日16時、全ての参加者が、birkenwieseに集うー全てのグループは、各国のカラーを着て行進し、スタジアムで注目される。スタジアムは、25000人々(2万人の参加者と約5000人の観客)を収容できる。多くの訪問者は、公的な歓迎スピーチを楽しむことができ、FIG旗、ジムナ旗、オーストリア国旗が掲揚され、初めに、ポーデン湖(別称コンスタンツ湖)地方からShow your color!が参加者と共に表現される。開会式後、個別の市町村の市長が、Color Our Villageのモットーとして国別市町村で激励をする。世話人は、全ての各地域で全ての参加者を歓迎したいと臨んでいる。」¹⁰⁾と記載されている。

開会式は、当日青空の見える晴天下で行われた。スタジアムのフィールド中央に設営されたステージ上で、スプレーで体操の絵画を描くシーンから始まり、絵画の完成後、フィールド前後に各国の国旗が整列する中、参加各国の参加者がフィールドを行進した。中央ステージで絵画が完成し、拍手喝采の後、ステージ上で男女ボーカリストの歌と男性のギターと女性によるキーボード演奏が軽快に迫力で会場に響いた。

式典に当たり、ドーンビルン市長(マリー=ルイズ Marie-Louise)とFIG会長渡辺守成氏によるスピーチが行われた。マリー=ルイズ女史は、「Dornbirn市は体操を推進する事を誇りに感じている。FIGイベント開催は今回が3回目で、2007年の13th World Gymnaestrada、2009年の1st World Gym for Life Challenge、そして今回

の16th World Gymnaestradaである。大会スタッフの大半は同じメンバーで大会運営のベテラン達である。そのメンバーが運営するこの大会は参加者が心地よく演技発表でき、多くの国の体操仲間達と活発に交流できる環境を作ることを中心掛けてきた。危機管理にも細心の注意を払ってきた。」とFIG主催の行事を手がけ今回3回目であること、大会開催にむけて経験者が快適な演技発表と、体操仲間の交流を目指して環境づくりに努めてきたことを強調した。また、FIG会長の渡辺守成氏により開会が宣言された。氏は、スピーチにおいて”Gymnastic is king of sports”「体操はスポーツの王である」と述べ、体操系競技の素晴らしさを表現した。

式典後エキジビションが、フィールド一杯に展開された。初めに、中央ステージで白衣装ドレスの男女による優雅なダンス演技、桃色の立方体を立体的に積み上げ、その上で民族衣装を着た女性のダンス的演技、次に、フィールドでは、黄色のヘルメットに工事衣装の少女・女性による工事シーンをイメージした演技は、ピンク色の立方体を担ぎ、それを組み替えて造形による変化と動きを楽しむ演技である。雰囲気がかわり、多数の子どもと大人による子ども広場をイメージした演技である。ピンクの立体用具を色々な形で積み上げたものを活用して遊ぶのどかなシーンである。ステージ上では、白つなぎ衣装の男女による洗練されたアクロ演技、フィールドでは、若い男女による青Tシャツと白つなぎの衣装による演技が行われた。引き続き、若い女性によるエアバック活用の演技は、はじめバックを腰に巻いて活発なステップで入場し、その後フィールドでバックをクッションにして横たわる、穏やかな太陽の日差しの中で朗らかなワンシーンである。女性による黄色のクッションを持つ横縞模様のTシャツとジーパンの演技は、クッションをもって、置いて、円形にラインにしてなどユニークな活用法であった。また、ステージでは少女・女性による高度なアクロの演技が行われた。フィールドでは、帽子、つなぎ衣装の男女によるミニトランポリンの演技、同時に、ステージは、作成された絵

画を思わせるカラフル衣装の男女による色煙幕を使った演技は、大会テーマを表現したものであろう。最後は、出演者全員がフィールドを埋めての壮大なグランドフィナーレであった。(写真1) 1~1) 15 一部1) より転載)

2) グループパフォーマンス

グループパフォーマンス(グループ演技)は、ジムナの中核的演技といって良く、8つのホールで、月曜日から金曜日まで、毎日9時から17時30分まで行われる。参加グループによる演技は10分から15分まで、演技では、体操の多様性が示される。観客は、世界中からの幅の広い体操による200以上の異なる演技を見ることができ(11)。

(1) グループ演技の演技傾向

ここでは、各国のグループ演技の演技種類(Performance Type)の傾向を考察する。対象とする資料は、大会ホームページWG2019Programに掲載されたチームの登録データである。あくまで登録データを参考にした傾向であることを付記しておく。各国が登録する全データの内、単一演技、2種類、3種類、4種類に分けて報告する。

1) 単一演技(N=180)について、頻度順に示すことにする。

体操(Gymnastics)(85件)、アクロバット体操(23件)、ダンス(23件)、ミックス(other/Mix)(18件)、不明(18件)、手具体操(Handapparatus)(10件)、器械体操(Apparatus)(1件)、エアロボックス(1件)、トランペット(Trumpette:トランポリン用具)(1件)である。今回は、一部の演技を見た印象では、アクロの増えた印象があった。グループでは、参加グループが多い国では、複数グループの組み合わせが多いため、種類は、ミックスが多数と予想されたが、単一内容の展開も多くみられた。演技を単一内容で展開するには、かなりの力量が必要とされるため、体操なども内容の幅のあるものになっていたと思われる。

2) 2種類(N=27)については、体操とダンス(13件)が多く、次に体操とアクロ(6件)、アクロとダンス(3件)が見られ、以下、体操



(写真1) 1～1) 15

と手具体操、手具体操とダンス、体操と器械体操、タンブリングとトランペットである。

- 3) 3種類 (N=20) について、頻度の多い順に、体操・アクロ体操・ダンス (6件)、体操・アクロ体操・器械体操 (3件)、体操・手具体操・器械体操 (3件) である。以下、体操・手具体操・ダンス、エアロビック・ダンス、アクロバット体操・新体操・ダンス、エアロビック・ダンス・器械体操、アクロバット体操・タンブリング・トランペット、タンブリング・トランペット・ダンス、アクロバット体操・ダンス・エアトラックである。多種類の構成があるが、演技でのフロアー、タンブリングフロアーの活用やミニトラのなど準備に手がかかるケースが多いように思う。
- 4) 4種類 (N=4) について、体操・手具体操・ダンス・器械体操、体操・アクロバット体操・ダンス・タンブリング、体操・エアロビックス・ダンス・器械体操何れも少数である。

(2) グループ演技

筆者は、大会では目当てのグループの演技を見て回るのであるが、今回は、大会中見ることができ、印象に残った演技を中心に報告したい。

(1) スイス (SUI12)

Group name : GYM VALAIS and GROUP SENIORROMANDS, Performance Title:Gym acrobatic and Surfing…スイスの男女の高齢者と青年男女の演技である¹¹⁾。前半は、成人男女のダンス的な演技、中間に高齢者男女のサーフィンを活用した体操演技があり、サーフィンの動きを模倣しながら、集団で隊形変化を交え、最後は、青年と高齢者混合での合同の体操を行い、拍手喝采であった。(以下写真2) 11～2) 12)



(写真2) 11～2) 12

(2) フィンランド (FIN10)

Group name : GYMCLUB Vantaa, Mantsala and Vihti, Performance Title : Enchanted Forest, Group Leader : Laura Nihti. …フィンランドの婦人女性体操グループによるもので、4つの振り付け、11歳から60歳までの参加者からなる。演技は、女性のフィンランド的な動きを見せ、後半の大胆な表現には感心させられた。(以下写真2) 21～2) 22) ¹¹⁾



(写真2) 21～2) 22)

(3) ドイツ (GER20)

Group name : Universitat club Muchen SCStaig, Performance Title : Skip'n Roll, Group Leader : M.Quell, K.Scherer. …演技は、ロープと車椅子ダンスとの協力の演技である。南ドイツ Staig からの“スパイダー”は16名のグループであり、作品の中で跳ぶ多様性を見せ、色彩豊かな輪により演技を盛り上げる ¹¹⁾。車椅子ダンスグループは、Withney Hostonn の歌により、6つのペアによるラテンダンスを見せる。初め、女性と車椅子のコラボ演技、女性による色彩豊かな輪のプレート、ロープによる軽快な跳躍の演技、最後は総出演の演技である。(以下写真2) 31～2) 34)



(写真2) 31～2) 34)



(4) スウェーデン (SWE10・11)

Group name: Malmoflickorna, Performance Title: “joyful gymnastics part1&Part2”, Groupleader: Jessica Bergh Skoog. …マルメは、1961年からジムナの全てに参加している。大会では、リボン、ボール、ダンス、もちろんトレードマークの赤いボールを披露する。また、新しいプログラムも見せる。演技では同時に約100個の赤いボールが空中にはねる ¹¹⁾。マルメは、筆者がチューリッヒのジムで初めて見て以来、毎回演技を楽しみしているチームである。今回もグループ発表で2回、FIG-GALAで3回見ることができた。ジュニアからシニアの女性による、軽快なリズムの音楽に合わせた優雅で全身的な布の演技、ボール2つ、3つの操作の巧みな演技に、今回は、ボール4つの演技が加わって会場を沸かせた。(以下写真2) 41～2) 44)



(写真2) 41～2) 44)

(5) 日本

1) 日本体育大学 (JAP20)

Group name: Nittaidai Gym & International Old Boys, Performance Title: “Happy gymnastics of 3 generation?, Performance Type : Gymnastics…日本体育大学の体操部とインターナショナルオールドボーイズによる演技「3世代のハッピージムナスティックス?」である¹¹⁾。演技は、入場からウエーブ、集団が軽快に歩く・ステップ・ホップから2人・3人・5人の組体操演技、仰臥姿勢による脚の運動と続く、三人による扇の造形・時間差の表現、整列隊形による姿勢変化・時間差跳躍と中央に密集に集合してウエーブ演技と継続された。中間部には、外国の体操選手を交えたベテラン体操選手による軽快なオールドボーイズの演技が会場の拍手のリズムにのり和やかに実施された。引き続き、男女による円形隊形による三段組体操や男女ペアによる剣状倒立、十字隊形による2段組体操 (Y字バランス)、円形隊形で女性の動きをする中、中央では4段ピラミッドが造形された。最後は、全員参加によるフィナーレであった。大学生男女の高い技能と良く洗練された演技だけに観客も感激し会場一杯に拍手が鳴り響いた (以下写真2) 51~2) 56)。



(写真2) 51~2) 56)

2) 筑波大学体操部 (JAP21)

Group name: University of Tsukuba, Gymnastics Club, Performance Title: Creative Gymnastics (創造的体操)、Performance Type: Gymnastics…筑波大学体操部大学生男女による数種類の手具を使った創造的体操 (ア

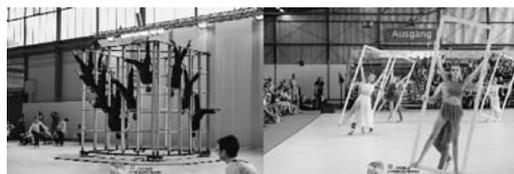
イディアに充足した体操)の演技である¹¹⁾。演技は、オープニングからジムボールによる移動・投げ・転回・壁歩きなどの多彩な演技、次に、小型大型のジャバラ状の円形筒の用具を使い回す・振る・ボールとのコンビネーションや形状の変化を楽しむ演技、三番目には、G-Ballを活用し、バウンズ系・バランス系・転回系演技と軽快に展開された。特にボールに乗り連続して姿勢を変える演技は魅力的であった。最後は、いままでの手具共演である。タイトルのように随所にアイデアが工夫され、手具から引きだされる可能性にこだわった楽しい演技であった (以下写真2) 61~2) 64)



(写真2) 61~2) 64)

(6) その他

グループ演技は、全て視察できなかったが、大会情報では、多数の面白いユニークが演技みられた。その一部を写真により紹介したい (写真2) 71~2) 74 文献1) より転載)。



GER17(SC Melle, TSV Etelsen)



(写真2) 71~2) 74 文献1)

3) ラージグループパフォーマンス

ラージグループ・パフォーマンス（ラージグループ演技）は、ブレゲンツのカジノスタジアムで、13日から17日に実施された。演技は、ジムナ特有のものであり、200名から1000名のグループが一万人の観客に向けて、他に類をみない演技を披露する。幾つかのグループは、ドーンビルンスペシャルでも演技する予定である。会場のブレゲンツのカジノスタジオは、6800m²のフィールドを有し、2600席（1000席は屋根つき）7600名の立見席を持ちラージ演技の条件を満たしている。近隣に地下鉄、湖、市の中心街がある¹²⁾。ここでは、演技順に全演技を報告する

(1) チェコ (CZE01) (Performance Title: “Borci”, Performance Type: “Acrobatics”, 13:40~)…成人男性による徒手、アクロを中心とした演技で、隊形変化が特徴である。初め、白Tシャツの男性の力強い集団演技、続いて赤いTシャツによる演技に続き、チェコの整然した演技から、後半は一部の男性による勇壮なアクロの造形などみごたえのある演技であった（以下写真3）11～3）14）。



(写真3) 11～3) 14)

(2) フィン (FIN01) (Performance Title: “Power of being”, Group Name “Team Finland”, 14:00~)…演技紹介では、女性1060名による3パートの演技からなり、パート1は、女性グループによる躍動感、情熱感、繊細で、有意義なダンスである。伝統的な手具を活用している。パート2は、自信、自然性のために準備されたダ

ンサーによる演技、パート3は、権威に対抗する状態を表して、最後は全員集まって終わる¹⁾。演技は、女性1060名による（衣装:上下黒）により、シルバーヘヤーの婦人による銀のプレート、バチを活用する軽快な演技、続いて、少女・女性によるマント、Tシャツを工夫した変化と躍動感のある演技、最後は、全員でシンボルマークを造形するなど工夫が凝らされている（以下写真3）21～3）24）。



(写真3) 21～3) 24)

(3) デンマーク (DEN01) (Performance Title: “Classic Ladies”, Performance Type “Gymnastics” 14:20~)…演技は、女性1200名（衣装青）によるパラソル活用の体操の演技である。初め、体操の演技から始まり、赤と白の鮮やかなパラソルを持って、置いての演技、最後は、徒手による集団の動き、ライン形成、ペアによる和やかな演技また滑稽な動きなどが続き、フィナーレまで陽気に活発に演技された（以下写真3）31～3）34）。



(写真3) 31～3) 34)

(4) ドイツ (GER01) (Performance Title: “Color of the Day”, Performance Type “Dance”, 14:40~)…演技は、男女1600名によるボール活用の演技である。演技は、はじめ婦人 (衣装:青と黒) によるGボールによるボールの色と大きさを生かした演技、ジムナのシンボルマット上で若い男女によるアクロの演技、ボールを持つ婦人とのコラボの演技、シンボルマークを中心としたボールによる放射状の隊形の見事な造形、続いて、婦人による四角いプレートと紙袋活用の演技、Tシャツジーンズの少女女性によるダンスの演技、最後は、全員集合によるフィナーレである (以下写真3) 41~3) 46)。



(写真3) 41~3) 46)

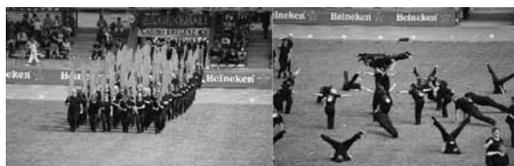
(5) ノルウエー (NOR01) 15:00~ (Performance Title: “Do you beleive in ghosts? (ゴーストを信じますか)” Performance Type: Gymnastics (体操) 15:00~) …演技内容は、女性による (衣装白黒) の演技、布の動きが特徴である (以下写真3) 51~3) 54)。



(写真3) 51~3) 54)

(6) スイス01 (SUI01) (Performance Title:

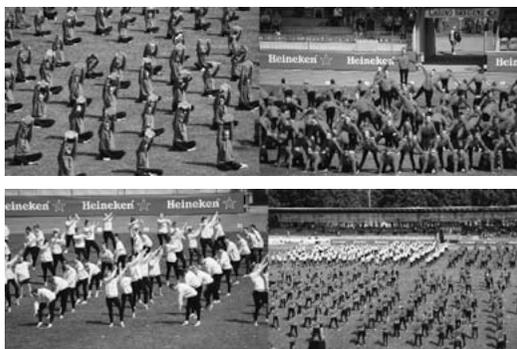
“Evolution (発展)”, Performance Type: Group Lader: DorisWeber 15:20~)…演技紹介によると、スイス体操連盟の演技は、テーマ「構想、構築、改革」を視覚化する。夫々が流れるように進み、最後は全体一体となる¹⁾。演技は、入場から初めは、長い赤旗 (形状が特徴) の演技 (衣装:黒)、第2演技は、男女成人による徒手の演技、第3演技は、四角い黄色のマント活用の演技 (中に入り形状をかえて動くことができる)。続いて、オレンジ色のヘルメット活用の演技は集団による演技やペアの演技で、隊形変化も鮮やかであった。最後は、中央に初めの旗のグループからフィールドに集合し、円形の中央に赤旗、周辺に黄色の布が集まり色彩を強調した造形で終わる。スイス人らしい独創的で、スケールの大きい演技である (以下写真3) 61~3) 68)。



(写真3) 61~3) 68)

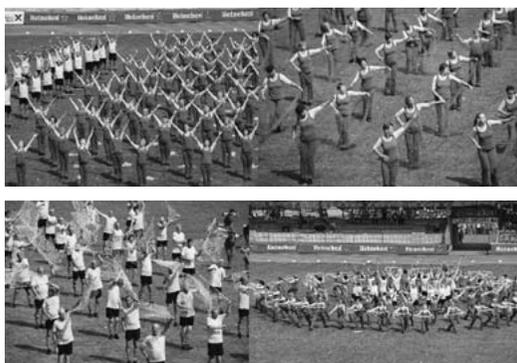
(7) イギリス (GBR01) 16:00~ (Performance Title: “Great Britain” (イギリス), Performance Type: 不明 16:00~)…少女女性3000名による演技 (衣装:青、黄、赤、緑のTシャツ) で

ある。演技は、青衣装、黄色衣装、赤衣装、緑衣装の演技で展開され、最後は全体で終わる。各パートとも端正な演技である（以下写真3）71～3）74）。



(写真3) 71～3) 74)

(8) チェコ (CZE02) Performance Title: “Gymnastics Dream”, Performance Type: “Handapapratus (手具体操)”, 16:20～)…演技内容は、布の演技から始まり、男性による布状スティック、女性によるネット状布の演技、用具を置いて徒手、またペアの演技、フィナーレは、パート毎に分散して造形してのフィナーレである（以下写真3）81～3）84）



(写真3) 81～3) 84)

(9) チェコ・スロバキア (CZE01&SVK) 16:40～ (Performance Title: “Together/Spolu”), Performance Type: “Dance(ダンス)”, 16:40～)…演技は、成人男女による徒手の演技である。初め、婦人による演技は隊形変化の中、婦人の特徴的な動きがあり、途中で首に巻いた赤、白、青の布を

取り出し、布にして動きながらチェコの国旗をイメージさせている。後半は隊形が大きく変わる中で、婦人の優雅な動きがみられ、最後は、中央に男性が国旗を出しピラミッドを造形しながら、婦人が菱形の隊形で3種の色のラインを形成してフィナーレとなる（以下写真3）91～3）94）。



(写真3) 91～3) 94)

4) ナショナル・パフォーマンス

ナショナルパフォーマンス（各国の夕べ）は、ジムナのハイライトの一つで、エキジビションセンターにあるホール6・9で月曜日、火曜日、木曜日に行われる。12に及ぶ夕べの間に、異なる国の最良の演技が、90分のショープログラム中で提供される。長い準備期間を経て、個々の国が多様な方法で国柄を提供する。その範囲は、体操、ダンスから、アクロバットを超えて、劇的演技まで多様である¹³⁾。各国の夕べは、スイス、オーストリア、北欧諸国、ドイツ、ポルトガル、イタリア、日本、パンアメリカンである。今回は、チケットの入手できたスイス、ノルディック、日本のみ報告をする。

(1) スイスの夕べ

大会案内では、組み合わせ演技で行われ、体操、ダンス、器具、アクロ、演劇、ユーモアなどがスイス体操の中でも、印象的な演技の中で提供されるとされている¹³⁾。

スイスの夕べは、テーマ「体操は人生と共にある (gymnastics is for the life)」と題し、人の一生と体操の関わりをストーリー的に描いたもの

である。全体として、高度な演技の豊富さ、演技の振り付けレベルの高さ、各パートの多様さと全体の緻密な展開、スイスの体操選手の層の厚さと底力を感じた。演技のパートは、誕生、成長期、成人結婚、子どもの誕生と家族などに分けられる、各パートごとに、子供・青年・成人（結婚）・赤ちゃんと家族・シニアなど人生のイメージと典型的な体操が表現され、90分飽きない工夫がされていた。

全体は、オープニングから約14演技で編成されており、個別の演技もハイレベルが多く、演技間には、2人のコメンテーターが次の演技の間、準備を上手に演出している。演技は、オープニングから入り、スイスの有名な勇壮なシュブングリングとダンスの演技、女性による蛍光フープの演技、男女によるマットの立体造形の演技、男女のダンス、男女のマットと跳び箱とマットによるタンプリング演技と連続される。中間（青年～成人）では、男女による活力あるフィットネス風演技、おしゃれなつなぎの女性によるダンスは、振り付け、隊形変化、動きと表現力などで会場を沸かせた。男女青年によるミニトラ跳び箱は5～6台による同時跳躍宙返りは迫力があつた。少女による空中リング、リ

ング（一輪）の回転、ダンスの演技のコラボ演技は、少女の空中技には驚嘆した。赤ちゃん世代はベビーカー生かした演技もおおらかな反響を呼んだ。後半は、女性による多数の平行棒とリボンの演技は、平行棒による基本技から上に載った動きまで勇壮に展開された。つなぎ衣装の男女によるプレートの演技は、グループで隊形変化を生かして造形が目された。男性のシニア体操である。白い筒と椅子の活用しながら面白く展開し、赤いベストを脱ぎ捨てて、全員で軽快にステップする姿に会場は大喝采であった。最後に再度シュブングリング・ミニトラのコラボの後、全員出場の勇壮なグランドフィナーレである。

特徴的な演技としては、スイス特有のシュブングリングの空中技、女性による表現豊かな演技、少女によるスリリングな空中リングの演技、中間では、女性による躍動感のある演技、男女ベアのリフト・ジャンプの演技、男性によるシニアの演技、男女のグリーンのプレート活用の演技などが注目された（以下写真4）11～4）18 文献1）より転載）。



(写真4)11～4) 18 文献1)

(2) ノルディックの夕べ

大会案内、テーマ「バランス」は、スカンジナビア諸国フィンランド・デンマーク・スウェーデン、ノルウェーからの演技のモットーであ

る。4つのシーズンをテーマに作成され、14のトップクラスの体操グループ、総計500名の体操家が参集する¹³⁾

北欧の夕べは、大会では必見として位置づけ

てきたが、個別の演技の構成や緻密な振り付けに注目するものがあった。特筆すれば、前半の男女成人によるパラソルとタンブリングの演技は、男性が黄色いレインコートを着ながらの高度なタンブの珍技の連続は迫力であった。続く陽気な男女のシニアの演技は、男女ソロからペア、4人、グループと発展し年齢相応に無理なく展開され好感が持てた。若い女性の赤タイトのGボール活用の演技は、ダンス的な振り付けで隊形も鮮やかに展開された。後半以降では、少女による高度なアクロ体操主体と続くエアマットの演技は、基本的な転回から高度な宙返りまで難なくこなしていた。北欧のタンブリングの強さ知る演技であった。後半で、男女シニ

アの体操は、ソロの体操からグループに至るまで優雅に展開された。次の少女によるロープもママミアの曲に合わせ、軽快に、ソロ短縄、大縄、ペア、グループと楽しく軽快に展開された。後半で、男女のシニアの体操は、ソロの体操からグループに至るまで優雅に展開された。後半の呼び物は、上下黒衣装のイケメン男性による円形マットを活用した演技である。円形のマット上での連続した多様な宙返りや、マットの位置を変えた展開や、大小3つの円形マットを組み合わせて演技などユーモアがあり飽きない演技であった。続く、婦人による、男性の人形を活用した演技も和やかな演技で会場を沸かせた(以下写真4) 21~4) 28 文献1) より転載)。



(写真4) 21~4) 28 文献1)

(3) 日本とアジアファミリーの夕べ

総合演出: 荒木達雄 音響・進行: 長谷川聖修
The Taiso 指導: 伊藤由美子、神保幸次郎、鈴木幸光、小柳将吾、鈴木裕太、檜皮貴子

今回の詳細事項は、2017年6月にドイツ体操祭/ベルリンで開催されたTurnfestの大会中に、Dornbirn大会の事務局長であるErwin Reis氏とDornbirn地区体操協会会長であるMonika Reis氏との打ち合わせで決定した。ヘルシンキ大会までは「Japanese Evening」として日本独自のイベントで実施してきたが、彼らの要望でもあったアジア地域からの参加チームも招待して「日本とアジアの夕べ」とし「Japan & Asian Friends」

と命名した。また、同日に2回実施してきたが、ポルトガルに1回分を譲ることになり、1回のみの実施となった。テーマを、「Let's Do it!」とし、演技の合間に体操協会で作成した「The Taiso」のショート・バージョンを観客と一緒に動き、観る側も簡単な運動を行い、演技と一体感を持たせる演出を試みた。アジアの友達として、タイ、ネパール、マレーシア、韓国、スリランカ、カタールが参加した。イランの参加も予定していたが、大会参加ビザが取得できず残念ながらキャンセルとなった。それぞれの国のコスチューム、音楽、演技ともにオリジナリティーに富んでおり、満杯の観客も大きな歓声

で迎えてくれた。観客が時間通りに会場に入りきれず10分遅れでスタートした。オープニングは、日体大のダンス部と伝統芸能コース学生達による和太鼓の演奏で、大半の観客は生の太鼓演奏にくぎ付けになっていたのが印象的であった。この太鼓演奏は2017年のドイツ体操祭でのスタジアム・ガラで演奏され、それを観ていたErwin Reis氏とMonika Reis氏の強いリクエストで実現した。また、大太鼓は大会本部のThomas Bachmann氏がドイツ/ミュンヘンの太鼓チームより手配してくれた。2時間のみのリハーサルにしては、入退場・音楽のタイミング、ライティング等何の問題もなく、FIG規定である90分間以内に終了し、観客の温かい反応もこのイベントを成功に導いた大きな要因であった。(以下プログラムと写真4) 31~4) 33)

(4) FIG GALA

FIG Gala 12日(金) 18:00~、20:30~
13日(土) 10:00~ Hall 6

総合演出: Guy Mäder Marina Salvini、FIG 一般体操委員会: Araki Tatsuo, Flemming Knudsen、LOC大会本部: Siegfried Kernbeiss

世界体操祭のハイライトとも言えるFIG Galaの準備は、2017年11月9日に上記のFIG Galaスタッフ5人が、スイス・ローザンヌのFIGオフィスに集まりスタートした。第1段階は参加予定国より推薦されたチームの内容・演技映像を5人で検討して、年齢別、性別、障害者、器具、演技のクオリティー等を考慮して30チームを5大陸から選別した。その後2018年5月に、Guy Mäder Marina Salviniの2名で更に絞込み19チームが決定された。彼らが今回のテーマに選んだのがJ. レノンの名曲である「Imagine」で、歌詞



(写真4) 31~4) 33)

日本とアジアファミリーのタベプログラム

- 20:30 The Taizo 指導
 1 Opening 和太鼓: 日体大ダンス部+ 和太鼓同好会
 2 G Ball 筑波大学体操部+ 日体大体操部 + 新潟大学リズム体操部
 3 Thailand
 4 日本ジャズ体操連盟
 5 Nepal
 The Taizo
 6 Iran キャンセル
 7 げんぎキッズ/デュッセルドルフ
 8 Malaysia
 The Taizo
 9 新潟大学リズム体操部
 10 T.G.S.
 11 日体大ダンス部 日舞
 12 International Old Boys
 13 ハロー・フレンズ・イノア
 14 Korea
 15 町田市リズム運動サークル
 The Taizo
 16 和太鼓・体操 日体大ダンス部+太鼓同好会+日体大体操部
 17 Sri Lanka
 18 げんぎキッズ/デュッセルドルフ
 19 日体大体操部 マット
 20 Qatar
 21 筑波大学体操部
 22 日体大ダンス部
 23 真美フレッシュ体操
 24 日体大体操部
 Finale 参加者全員 The Taizo
 22:10

をイメージした愛と平和を体操で繋いでいくストーリーを基に進行された。3回のチケットは発売と同時に売り切れた。そして、最終リハーサルを4,000人のボランティアの方々のみを招



FIG-GALA演技プログラム

演技順	国名	チーム名
1	Australia	Novus
2	Germany	TV Ludwigshafen-Bodensee "Showteam Blues Brothers"
3	Switzerland	Swiss rings
4	Israel	Maccabi Dan
5	Canada	Team Saskatchewan
6	Norway	Fredrikstad Gymnastics Club
7	Italy	Ginnastica Petrarca 1887
8	Portugal	Mãe D'Água
9	Czech Republic	Sokol Kampa Trampoline Praha
10	United States	Chattooga
11	Benin	Les super acrobats 映像発表
12	Denmark	Gjellerup
13	Japan	International Old Boys
14	Sweden	Malmöflickorna
15	Australia	PCYC Gymparoos Performance Team
16	Finland	Team Finland
17	Switzerland	Welsch Master Team
18	Greece	Olympiada Thrakomakedonon
19	Mexico	Holística Gimnasia
20	Zimbabwe	Zimgym
21	Austria	The Freaks acrobatics showteam

待して公開リハーサルとした。Beninチームは、ビザが取得できなかったので入国できず急遽、演技映像発表となった。ベスト・チームの演技に相応しいバラエティー豊かな内容であった¹⁴⁾ (以下写真4) 51~4) 53)。12日の2回目 (20:30~) は、オーストリア全土でTV放映された。

5) その他

(1) シティパフォーマンス

シティパフォーマンス (シティ演技) は、フォーベルグの8つの異なる市町村に設けられたオープンエアーステージである。地域の人々

が、ジムナに來れなくてもジムナに近づくことができ、大会のモットー“Come together. Show your Color”を称える「ハイライト」でもある。ジムナ地域内の色々な“ホットスポット”の野外環境で、オープンエア演技は、全てのグループのための魅力的な会場でユニークな可能性を提供する。一人か二人のエキストラショーからグループ演技の3グループまでの興味あるものである。シティ演技は、小会場の舞台で、まじかで演技がみれるため、グループ演技とはまた違った演技の部分まで見ることができる楽しさもある¹⁵⁾。今回は関心した幾つかの演技の写真だけ紹介する (写真51) ~3) 文献1) より転載)。



52) GER30H TuS Katzenelnbo-Klingelb. "Energetic" (写真51) ~53) 文献1)

(2) ドーンビルン・スペシャル

ドーンビルンスペシャルは、フィンランドの「ミッドサンスペシャル」のアイデアを賛同し、このコンセプトを使う決心をした。水曜日夜方は、特別なラージグループ演技の行事が組織され、「ドーンビルンスペシャル」と名付けられた¹⁶⁾。

ワールドチームの説明…2015年ヘルシンキ実行委員会では、初めてワールドチームの紹介をし、ジムナへの新たなマイルストーンをおいた。ワールドチームは、世界中から参加した国際的なラージグループ演技である。特記すべきことは、チームは、グループとの関係を持たないが、個人を含めて全てジムナへ参加者である。ヘルシンキで相当数の登録者がおり、2000名以上の人々がワールドチームに参加している。

(3) ワークショップ (Workshop)

ワークショップは、「参加者と観客全ての人に対して提供される活動」と呼ばれ、センターの4つのホールで、土曜日朝に行われる。加え

て、その週間に参加グループ（コーチ、トレーナー）によって、屋外のステージで提供される¹⁷⁾。

筆者は今回は、行事が重なり参加出来なかったが興味深い内容がみられた。概要は、次に示す通りである。

1) World Jumping” Basic”、2) 同” Dance”「大きなグループフィットネストレンド2019の経験」…20分のworldjumpは、60分のジョギングの効果に相当する。

3) Brazilian Rhythm:Let's do gymnastics together…ブラジルのリズムとアクロバットが一般体操の振り付けをつくるきっかけになる。4) 同

5) Schuhplatter「オーストリアのフォークダンス」…ババリアとチロル（南ドイツ、オーストリー、北イタリアのドイツ語圏）の伝統的なフォークダンススタイルである。ダンスの際に足ふみ、拍手、靴、腿・膝を手でたたく動作がある。

6) Perfect 10 Posture「完全なる10の姿勢」…参加者は、苦痛の軽減、運動の効率、明確な目的のために体と脳の関係を再構築する。毎日の基本的エクササイズの実施が「完全なる10の姿勢を達成させる」。

7) Candian Kick-Start「カナディアンキックスタート」…45分の持久系体力の向上を目指すものである。マーシャルアーツ種目により改善された運動パターンとハイエナジー、流行の音楽による振り付けにより特徴づけられる。

8) Disability Gymnastics from the Beginning「初級からの障害者の体操」…スポーツクラブ“Spartacs”の体操選手の協力を得て、多くの症例で証明されている積極的な治療の技術を活用することで、生活を改善するようなスポーツの利益を例証する。

9) Alpine folk dance-old dancer detected「アルペンフォークダンス—伝統ダンスの新しい模索」…フォアアベルグと近郊のフォークダンスの集大成を踊る。

10) Vinnese Waltz「ウイナーワルツ…あなたは、体と対話していますか」は、体の言葉である。ダンスは、全ての感覚と喜びを呼び起こ

し、音楽に対する運動は、日々の労働に対する偉大なバランスをもたらす。

11) Siam Smile Exercise「Siamスマイルエクササイズ」…健康状態と健康を推進する一般体操の発展は、シニア女性の体力と関連している。それは、一般体操の原理・哲学やスポーツ科学のとの調和をとりながら発展してきている。（内容は）オリエンテーション、ダンス・タイの文化的ダンス、ヨガ、リボン・ボールなどの用具を使った運動を含む。モデルは、シニア女性の健康状態を高めることを助長するために適したものが使われる。

プログラムを整理すると、フィットネス領域では、1) World Jumping” Basic” „Dance”、6) Perfect 10 Posture（完全なる10の姿勢）、7) Canadian Kick-Startなどがあり、何れもトレンド的な内容である。

ダンス領域では、フォークダンス系として、5) Schuhplatter（オーストリアのフォークダンス）、9) Alpine folk dance-old dancer detected「アルペンフォークダンス—伝統ダンスの新しい模索」、10) Vinnese Waltz「ウイナーワルツ」がある。何れも、オーストリアの民族ダンスである。

体操系では、3) Brazilian Rhythm: Let's do gymnastics together「一緒に体操しよう」、8) Disability Gymnastics from the Beginning「初級からの障害者の体操」、11) Siam Smile Exercise「Siamスマイルスマイルエクササイズ」は、女性シニアの健康増進を促進する理論と運動課題の提供である。

6) 閉会式とエキジビション

閉会式は、大会最終日7月10日16時から17時30分までBirkenwiesestadiumで行われた。閉会式はエキジビション、式典、エキジビションからなる構成である。このエキジビションは、大会中ラージグループ演技、ドーンビルンドスペシャルのワールドチームなどから編成されている¹⁸⁾。

大会案内では、「閉会式は、オーストリアドーンビルンで行った全てのメモリーを残す最終行事（の役割）である。最後は5大陸、3000名の

再演技者と共に、周知されている集う指針を表現する。これは、65カ国からフォアーベルグ地域に滞在数演技者に与えられた精神である。ドーンビルン市長アンドレ＝カウフマンによりこの精神が喚起され「この大会を特別なものにしたものは人々との出会いである」と言われた。記念すべき一週間の祝福と同時に、将来に向けた、4年後のアムステルダムジムナへの祝典でもあった。オランダ体操連盟(KNGU)の代表モニカ＝ケンプは大会旗を受け取った^{3) 18)}。

続いて、6つのエキジビションが行われた。初めは、フィールドにピンク色のボックスが立体的に置かれている中で女性による黒タイトのダンサーによる演技から始まった。次いで、男女子どもから成人までの色Tシャツとジーンズを着たワールドチームによる演技である。この演技は、ジムナの報告によれば、「最も思い出に残る演出の2つの演技」とされ、「集う」と同様に精神をより伝えるものであった。ワールドチームの緑のセクション、白いシャツ・ジーンズ衣装の数百の演技者は、優れたユーモアのある演技により、スタジアムが一杯になった。彼らは、ジムナのテーマ「集い色を見せよう」の同意の証のようにの夫々がポケットから色つきのリボンを引き出した。ワールドグループは、17の異なる国々がこのセクションで演技する：欧州からイギリス、ギリシャ、イタリー、マルタ、ポーランド、セルビア、スペイン、アメリカからアルゼンチン、カナダ、ペルー、ウルグアイ、アフリカからタンザニア、アジアからネパール、ウズベキスタン、オセアニアからオーストラリア、フィジー、トンガからの参加者である。

演技の間に、男女成人のよるチェコとスロバキアキアの演技があった。報告によれば、「演技は、全体では、388名の女性、64名の男性は、チェコスロバキアの独立の歴史を祝うような赤、白、青色が芝生のフィールド外を飾った。演技は、チェコスロバキアの創設100年を記念するソコル運動を祝福する”SKOL SLETS(ソコルスレット)で行われた始めの演技の一部である。内容は、ポルカ、エアロビック、アク

ロボットの要素を含んでいる。男女とも伝統のあるチームらしく端正で、厳か、また陽気に展開された^{3) 18)}

続いて、一杯のスタジアムは、南アフリカによる”ダンス”「今夜ライオンは寝むる」、続いてスケールの大きいドイツ、イギリスの演技であった。ドイツの演技は、少女女性による15のエアトラックと多数のアクロ演技であった。ロングのエアマットを通常のタンプリングとしての活用から、立てて立体的に、多数で担いで上に人を乗せて移動する、2段による立体的な造形、組み合わせでY字などの造形などを連続的に形成し、合間にアクロバットの組体操を演じた。イギリスの演技は、初め赤、青、黄、緑(4色のTシャツとタイト)の4グループによる演技が行われ、最後は、ジムナマークの白Tシャツになり、若若しい躍動間のある動きでしめくくられた。民族衣装演奏隊がフィールドを行進したのち、一部の演技者が再度入場し演技をする中、式典は始まり、オーストリア国旗、FIG旗、ジムナストラダ旗が厳かに降下された^{3) 18)}。

大会役員によるフェアウエルスピーチが行われた。初めに、FIG会長渡辺守成氏によるスピーチは、ジムナに成功に導く役割をしたドーンビルン、地域組織委員会、8000名のボランティアに感謝を述べ、「皆さんの帰路の安全とアムステルダムでの再会を期待している」³⁾と付け加えた。次に、カウフマンは、演技者とボランティアに「驚くほどの大会」であると感謝し、また「温かさ、喜び、エネルギーが伝わり、人々を深く動かした」¹⁹⁾と加えた。LOC(地域実行委員会)会長マリー＝ヒンターロイヤーは、今週世界中から訪れた体操家とフォアーベルグとドーンビルンで経験したことは言葉に尽くせないと述べた。式典は、オランダの体操家による演出と、「17回ジムナ2023アムステルダム」と表示されたのオレンジの旗が掲げられた、これはドーンビルンの最後の仕事であった。最後に、FIG一般体操委員会会場であるマルガレット＝シッカネン＝アールキストは、7日を振りかってホストの貢献をねぎらった。「私は、ドーンビルンで素晴らしい日を持てた。私達は、ハピー

な一委員会を持った。予期せぬハプニング、開会式の天候のような事もあったが、全く予期せぬ出来事があってもそれを解決できることも分かった。吾々は開会式を延期した。水曜日のオープニングは特別のものとなった。それは素晴らしく組織され、背景の美しい環境と山々を背景に、あなた方全員が参加してくれた。それは、私の記憶に永遠に残るでしょう」³⁾と大会への感謝と感動を語った。

最後に、男女黒衣装のダンサーがフィールドに現れ、「2023 アムステルダム」と表記された横断幕を数か所で掲げ次の大会にエールを送った(以下写真7) 1~7) 3)。

5. まとめ

2019年世界体操ドーンビルン視察の概要は、以下に示す通りである。

- 1) 大会会場は、ドーンビルンのエキジビションセンターを中心に、フォアールベルグ地方広域に渡っていた。前回同様、緑、山、青空など自然に恵まれ、また、会場も涼しく快適であった。会場周辺、宿泊地なども、清潔感があり、また、ジムナ旗などの市内の景観と調和しながら掲示され、大会の雰囲気盛り上げていた。
- 2) 参加国は、5大陸、65カ国、特にネパールなどアジア圏からの約25000人の参加者を集めた。前回より広がりを見せている。
- 3) 大会のスローガンは、「集い、色を見せよう」(“Come Together.Show your color”)。前回と同様、国際交流、独自性多様性に主眼をおいた開催側の意図が反映されていた。
- 4) 大会内容は、従来大会と同様であるが、開会式・閉会式などの式典行事以外に、グループ演技、ラージグループ演技、シティ演技(オープンエアー)などの演技発表、また、ナショナル演技(各国のタペ)・FIG GALAなどチケット制の多数の観客を呼ぶ行事的演技などが、午前午後、夕刻まで多彩に編成されていた。今回のドーンビルンスペシャルは、世界各国の参加者による編成されたワールドチームなどによる集団演技で、前回ヘルシンキ大会から始められたものである。
- 5) グループ演技は、8会場で行われ、以前の大会同様盛況であった。筆者の視察したスイス、デンマーク、フィンランド、ドイツな



(写真7) 1~7) 3)

どの伝統国は、以前にもまして、高い技能、緻密な演技構成、斬新的な振り付け、奇抜な用具・音楽・衣装また演出なども工夫されていた。日本のグループの演技も、多数の観客を集め、盛況であった。

- 6) ラージグループ演技は、以前より演技数や演技者数もやや少ないように思われたが、演技の内容は劣らず優れていた。いずれも、個性があり、独自性のみられる演技であったが、中でも、スイスの珍しい素材・演技展開・隊形変化、チェコの端正さ・隊形変化・演技中の基調色の変化、ドイツのGボールなどの器具の活用・変化の豊かさなどに注目したい。
- 7) 大会主要行事の開閉会式、各国の夕べ、FIG GALA、ドーンビルンスペシャルなどは、地域或いは世界の高い技能集団編成され、大変な盛況であった。特にFIG GALAは、「ジムの絶対的ハイライト」と称され、「体操の多様性を」見せる目的でFIGにより組織されたものである。今回は、世界中からの16カ国約700名の体操選手を集めて展開された。
- 8) フォーラムは、少数であったが、体操の実演・指導に関わる興味あるテーマで組まれていた。今回は、残念ながら参加ができず、紹介に留めた。

今回の大会は、8年ぶりの参加となり、一部不安があったが、豊かで潤いのあるドーンビルンの自然環境と、海外の素晴らしい体操の演技、体操仲間がそれを抱擁してくれた。

ジムナは、演技の高度化と演技参加者の層の厚さ、大会自体の成長と安定度、運営組織の洗練ぶり、大会環境の充実など、申し分のない大会に成長していると感じた。まさに、FIGの主催する一般体操の自信の大会であった。

次回第17回大会は、2023年アムステルダムで開催予定である。筆者は、第9回開催地で視察を開始した大会であり興味関心はつきないが、若い頃の技能や動き、演技できる体力や時間を惜しんで会場を見て回る体力、ノリノリのリズ

ム・トレンドの動きについて行けるセンスなど年齢相応に難しい条件が克服できれば、是非参加したいと考えている。

今回の実り多い体操祭に感謝し、大会中共に演技し、会場を歩き視察した体操関係者に心から感謝とお礼を申しあげたい。

参考文献

- 1) 第16回ワールドジムナストラダ (<https://www.wg2019.at/wg2019/en/worldgymnaestrada/>)
- 2) オーストリア体操協会 (OFT)
- 3) FIG HP (<http://www.gymnastics.sports/site/news/displaynews.php?idNews=2551>)
“Dornbirn says a fond farewell to World Gymnaestrada”
- 4) 1) “Come Together .Show your Colors”
- 5) 1) “What is Gymnastics For All=GFA”
- 6) 1) “Celebrating Diversity, Cooperation And Community”
- 7) 川端昭夫・荒木達雄・春山国広 (2007)、「2007年ドーンビルン第13回世界体操祭視察報告～山と緑と太陽に溢れたオーストリー世界体操祭～」、中京大学体育学論叢第48巻第3号 P37～57
- 8) 川端昭夫・荒木達雄 (2012)、「第14回ワールド・ジムナエストラダ・ローザンヌ2011視察報告～色彩・音楽・動き・体操のマジック～」、中京大学体育研究所紀要第26号 P15～34
- 9) 1) “MOTTO”、大会ロゴ“Colorful Spiral”、マスコット “Dorlie”
- 10) 1) events “Opening Ceremony”
- 11) 1) events “Group-performance”
- 12) 1) events “Large-group-performance”
- 13) 1) events “National-performance”
- 14) 1) events “FIG-Gala”
- 15) 1) events “City-performance”
- 16) 1) events “Dornbirn special”
- 17) 1) events “Workshop”
- 18) 1) events “Closing ceremony”